

事業所公表自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		社会福祉法人 四日市福祉会 ブルーミング・コフレ				公表日	令和8年 2月26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○		児童の利用者数が増えているため、手狭になっており、また死角等もできるため危険箇所がある		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○	児童の活動を行う際、児童の状態によって職員を分けることもできていた。	反面、児童の利用者が増えているため、曜日、時間帯、移動時、活動内容によっては危険な時間帯もあるため、改善は必要である。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	児童の特性に応じて、部屋を分けて過ごしている。	児童に分かりやすい構造化までは行えていない。環境入口等の段差で躓いたりしてしまう可能性もあるため、段差解消等の配慮は必要。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		作業・ゆつくりと過ごすスペースをつくることはできている。	他の児童の声など聞きたくない児童に配慮した環境がつくれていない。（屋外に出る、法人内の空いているスペースを利用）		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	個人の性格や相性、その時々状況によって居室を分けている。	他の児童の声など聞きたくない児童に配慮した環境がつくれていない。（屋外に出る、法人内の空いているスペースを利用）		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	毎月時間を設け、改善点などの話し合いを行う。パート職員にも空き時間に引継ぎ・報告を行っている。	全職員（アルバイト含む）にすべて周知ができていない部分もあるため、会議に参加できていない職員にも意見をもらう時間を設ける。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者との面談の場や送迎時に、そこで保護者からのご意見を聞いている。保護者会の場合も設け、保護者の意見も聞いている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	業務内でパート職員と意見交換等を行い、改善案などを聞いている。	全職員（アルバイト含む）にすべて周知ができていない部分もあるため、会議に参加できていない職員にも周知していく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		法人として事業所ごとに交替で第三者評価の受審を行っているが、ブルーミング・コフレとしては今年度は行えていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○					
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児童個人の強みを見つけれられるようにサポートを行っている。	職員と話し合いながら計画を作成しているが、こどものニーズなどアセスメントしきれていない部分もある。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○	会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。パート職員にも空き時間に引継ぎ・報告を行っている）	児童発達管理責任者が主に作成しており、また全体職員への引継ぎ等を行っているが、「最善の利益」まで検討ができていない部分もある。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○	会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。パート職員にも空き時間に引継ぎ・報告を行っている）	児童発達管理責任者が主に作成しており、全体職員（アルバイト職員）への共通理解は不十分な点が多いため、今後、共有する場面が必要である。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童個人の強みを見つけれられるようにサポートを行っている。	「本人支援」の支援内容が多く、今後、「移行支援」などの支援内容も盛り込んでいく必要がある。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	日々の活動内容の方向性は理解できている。	一部の職員で活動プログラムの検討を行っているため、今後、職員が前日の午前中に案を出し、午後職員が揃った時点で再確認を行う		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日々、利用される利用者に応じ、できそうな活動を取り入れていく。またそれらをヒントに近い活動も見つけていく。	個々の力に応じて「自分で活動内容」を決める支援も取り入れていきたい。 また遠足等、屋外に出かける活動が今年度は行えていない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別で課題を行う時間、集団で活動を行う時間を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には職員が集まった段階で、当日利用される児童の支援の注意点などを話す。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	支援終了後、次回利用の際の注意点など相談等を行っている。	勤務時間の都合で支援終了後の打ち合わせをできない職員もあり、共有が後日になってしまうこともある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後、次回利用の際の注意点など相談等を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			一部の職員への報告が出来ていない児童もいる。そのため、定期的に引き継ぎを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。		○		現在、職員側の視点で支援が行われているため、今後、写真などを活用し、複数の中から、ご本人が行いたい活動を選んでいただける機会もつくる。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			今後、医療機関と連携が必要な児童が利用される場合は行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		児童発達支援の利用者においては、幼稚園・保育所等との連携は一部の児童しかできていないため、引き続き他の幼稚園・保育所とも情報共有を行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		今年度一名法人内の生活介護事業所に移行するため、引き継ぎを行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修までとはいかないが、必要に応じて児童発達支援センター相談支援事業所からも助言等をもらっている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域の公園で地域の子供たちと出会う程度の活動しか行えていないが、中には顔見知りの方も多く、声をかけていただく機会も多く、大切にしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			アルバイト職員が参加出来ていないため、出席した職員からの報告会などを行っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時やお電話などで保護者と話し合う機会を設けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	家族等が参加できる研修として今年度普救命講習等を行った。	今後、外部から提供のあった研修会等でも保護者が参加できそうな研修等の情報提供を行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	現状、全ての保護者の方と面談の機会は行えていないが、順番に保護者面談の機会を設けている。	現状、全ての保護者の方と面談が行えていないため、順番に保護者面談の機会を設けていく。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	現状、全ての保護者の方と面談の機会行っていないが、順番に保護者面談の機会を設けている。	現状、全ての保護者の方と面談が行っていないため、順番に保護者面談の機会を設けていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	年に数回、保護者会や研修会（普通救命講習）を行っている。	兄弟同士で交流で交流する機会を設けていないため、法人のイベント等で行えるようであれば声をかけていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情等についてはHP、保護者会等で説明している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		四日市福祉会の広報や、保護者にその日の活動などできる範囲で写真でお伝えする。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		写真、絵などで支援を行う場面を増やしているが、まだまだな部分も多い
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年に一度、法人内でブルフェスタやを通し、地域に開放を行っている。法人内の事業所イベントのチラシを地域に配る機会も設けている。またボランティアの方にも参加いただきゲームなどを行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアル、職員への周知（安全計画に含まれる）を行っている。保護者にも保護者会の際も説明を行っている。	保護者会で説明等を行っているが、周知ができていない部分もあるため、今後も引き続き保護者会等で説明を行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	マニュアル、職員への周知（安全計画に含まれる）を行っている。保護者にも保護者会の際も説明を行っている。	安全管理の部分で研修等を行うが、危険が伴う場面も多かったため、引き続きヒヤリハット等で研修を行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		マニュアルを保護者への周知ができていないため、面談時等を通して、マニュアルの説明等も行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			